

「令和5年度奥州市人々のつながりに関する基礎調査」

調査結果報告書

令和5年9月

<奥州市地域包括支援センター>

1 目的

令和3年度に実施した地域ケア会議にて、市全体の課題として孤立化が上げられており、特にも、男性独居世帯や、高齢者と子等の二人世帯が孤立するリスクが高い傾向が見られたことから、支援が必要な世帯の早期発見・対応と、支援体制の構築を目的として調査を実施した。

2 調査期間

令和5年6月1日（木）から6月30日（金）まで

3 調査対象者

(1) 65歳以上男性独居世帯（要介護認定者を除く。） 2,273世帯

(2) 65歳以上高齢者と男性の子等の二人暮らし（要介護認定者がいる世帯を除く。） 1,516世帯

合計 3,789世帯（令和5年3月31日時点）

4 調査方法

対象者へ調査票を郵送配布、郵送回収

5 調査項目

別添調査票のとおり

6 回収状況

(1) 65歳以上男性独居世帯 1,073件（有効 937件、全て無回答・無効 136件）

(2) 65歳以上高齢者と男性の子等の二人暮らし 742件（有効 681件、全て無回答・無効 61件）

回収数：1,815件（有効 1,618件、全て無回答・無効 197件）

有効回収率：42.7%

（ 回収のうち、実際の居住実態が調査対象者と異なるものは無効とした。
ただし、無効のうち、地域包括支援センターへの相談希望があった方には相談対応を行う。 ）

7 調査結果

各調査項目の集計結果については、別添「令和5年度奥州市人々のつながりに関する基礎調査集計結果」参照

8 調査結果の分析

調査項目の中でも、問18の「困りごとの相談先・相談相手の有無」については、支援が必要な世帯の早期発見に直接関わる項目であり、この項目では、65歳以上男性独居世帯（以下「独居世帯」という。）で56%、65歳以上高齢者と男性の子等の二人暮らし世帯（以下「二人

世帯」という。)で75%が「いる」と回答している。これらの世帯は相談先を通して、支援に繋がると思われる。

一方で「いない」と答えた世帯を分析すると、相談先・相談相手の有無以前に、家族・親族、社会や地域との接点がほとんどない世帯が一定数いることが分かった。この世帯を「特に孤立するリスクが高い世帯」(※)とした。

「特に孤立するリスクが高い世帯」に当てはまる世帯は、独居世帯で71世帯、7.6%、二人世帯で15世帯、2.2%であった。

この世帯について、更なる傾向の分析を行い、以下の結果が見られた。

(1) 独居世帯

調査項目のうち「現在の心身の健康状態」「外出頻度」「最近1カ月の外出目的」「社会・他人とのかかわり方の満足度」等と関連づけ集計し、「独居世帯」と「孤立するリスクが高い世帯」を比較した結果、孤立化の傾向がある方は、心身の健康状態があまりよくなく、困りごとや将来不安なことがあるものの、不安や悩みを相談することについては面倒に感じる、相談しても無駄であるといったあきらめの感情を抱いている傾向が見られた。

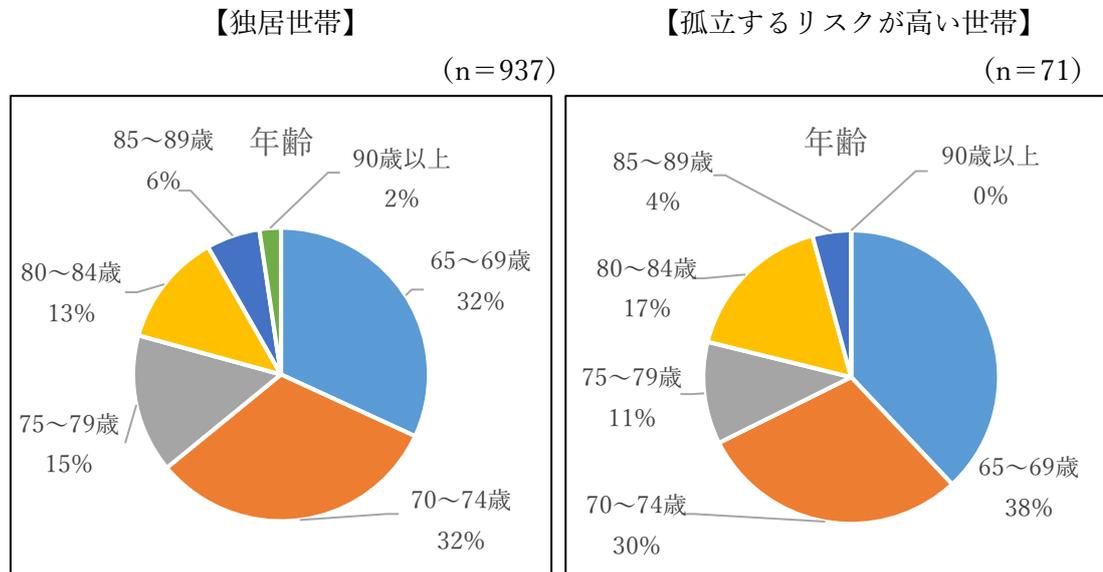
※ 「特に孤立するリスクが高い世帯」

問18の「困りごとの相談先・相談相手の有無」について「いない」と答えた世帯のうち、次の条件に当てはまる世帯

設問内容	選択肢
あなたは現在仕事をしていますか	1 している 2 していない
あなたと別居家族、友人・知人とのコミュニケーション頻度についてお答えください(①直接会って話す、②電話、③郵便やFAX、④メール等の手段別に回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日 ・ 週4～6回程度 ・ 週1～3回程度 ・ 月1、2回程度 ・ 月1回未満 ・ 全くない ・ 全て無回答 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">} ※手段は問わない</div>
あなたは現在、どのような活動に参加をしていますか。人と交流する活動についてお答えください	<ul style="list-style-type: none"> 1 自治会・町内会などの活動 2 ボランティア活動 3 スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動 4 その他の活動(同窓会活動・宗教や信仰上の活動など) 5 特に参加はしていない ・ 無回答

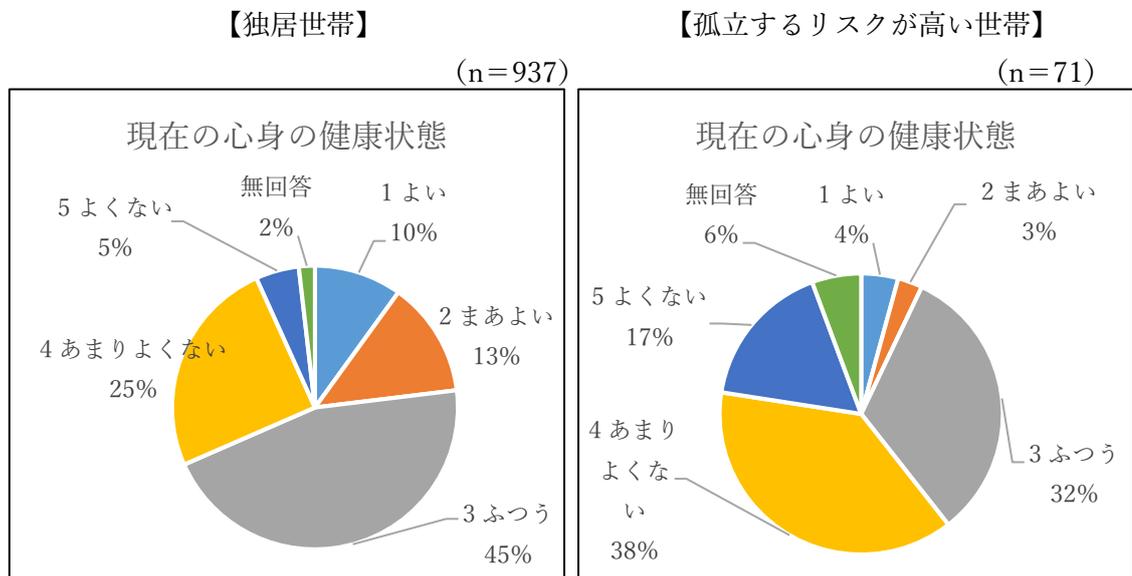
ア 年齢

「特に孤立するリスクが高い世帯」では、「独居世帯」と比較して年齢による差異はみられなかった。



イ 現在の心身の健康状態

「特に孤立するリスクが高い世帯」では、「独居世帯」と比較して「よい」「まあよい」が少なく、「あまりよくない」が多い。

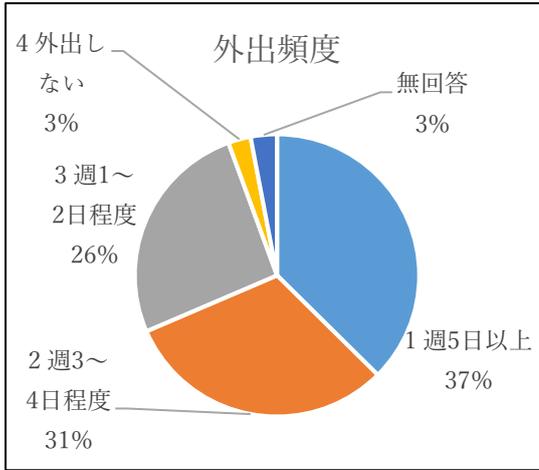


ウ 外出頻度・最近1カ月の外出目的・外出時の移動手段

「特に孤立するリスクが高い世帯」では、「独居世帯」と比較して「外出頻度」においては「週5日以上」が少なく、「週1～2日程度」が多い。「外出しない」割合の差異は小さかった。「最近1カ月の外出目的」では、「食事・買い物・日常の用事」「通院」が多くを占めており、最低限度必要な外出のみとなっている傾向がうかがえる。「外出時の移動手段」では、「自転車・バイク」の割合が多い傾向がみられた。

【独居世帯】

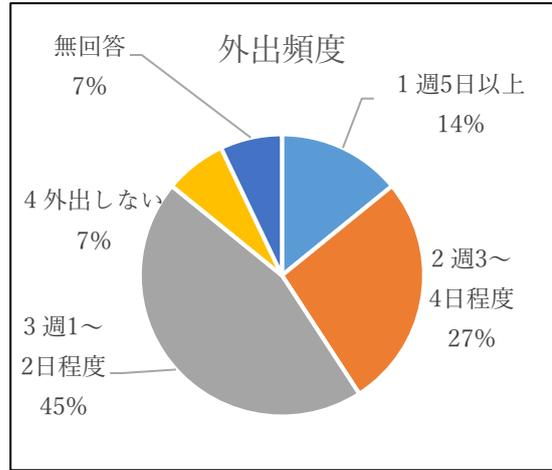
(n=937)



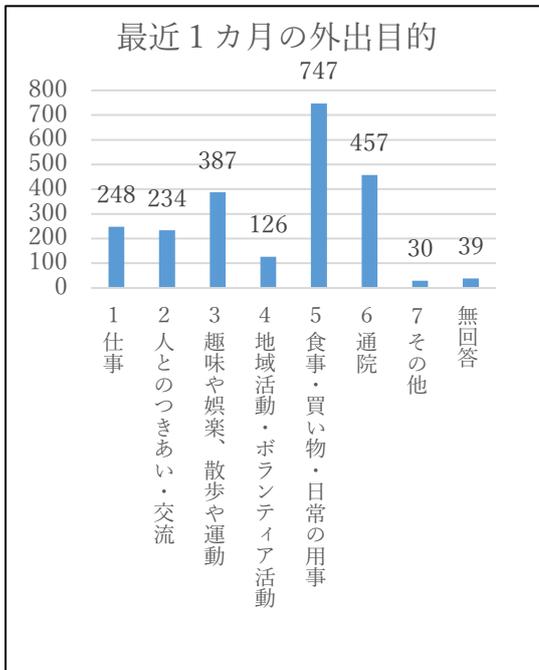
(複数回答)

【孤立するリスクが高い世帯】

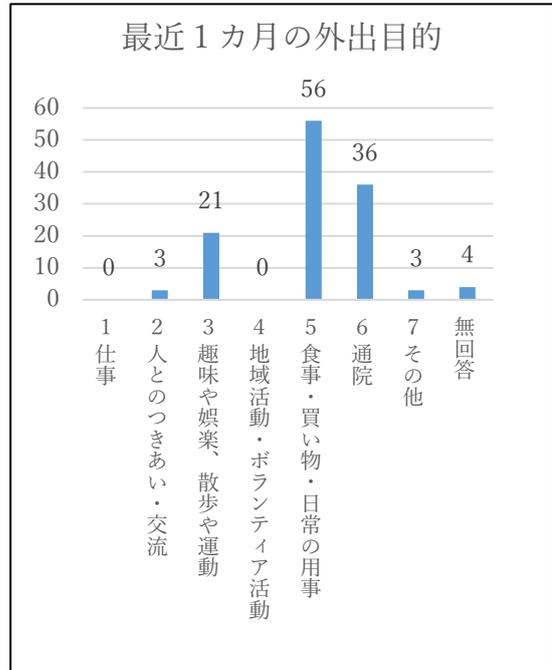
(n=71)



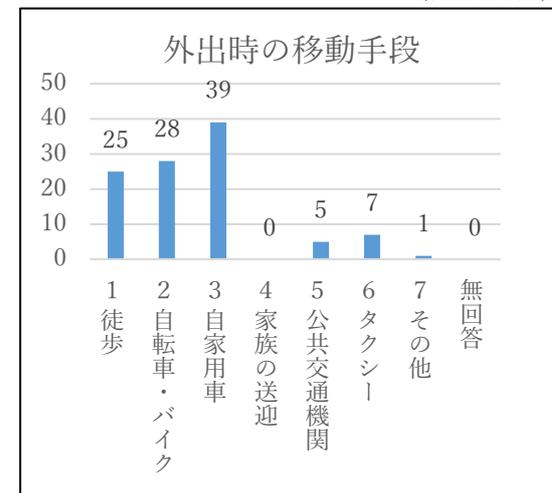
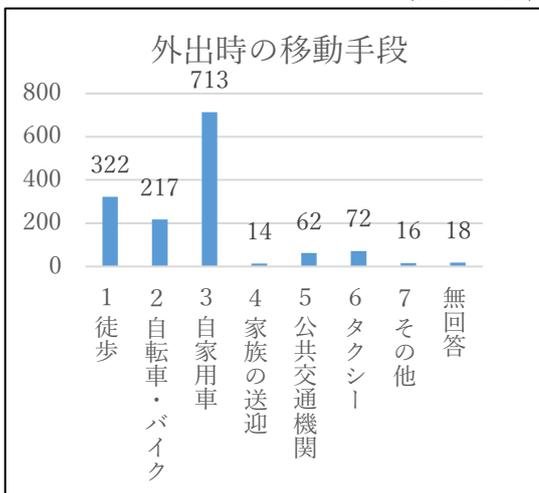
(複数回答)



(複数回答)

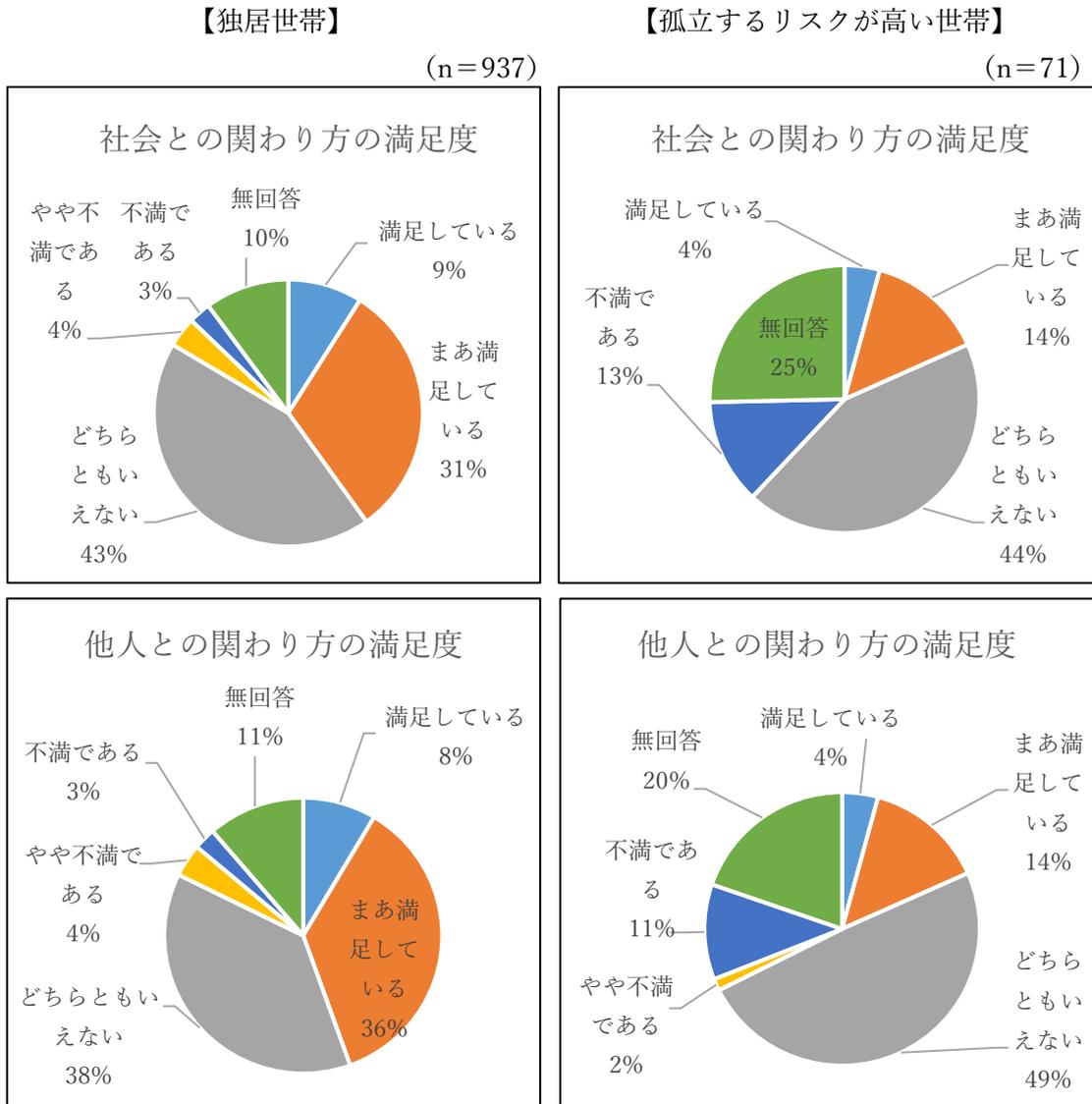


(複数回答)



エ 社会や他人とのかかわり方の満足度

「特に孤立するリスクが高い世帯」では、「独居世帯」と比較して「社会とのかかわり方の満足度」及び「他人との関わり方の満足度」において、「どちらともいえない」が最も多い傾向に変わらないが、「まあ満足している」が少なく、「不満である」が多い傾向がみられた。

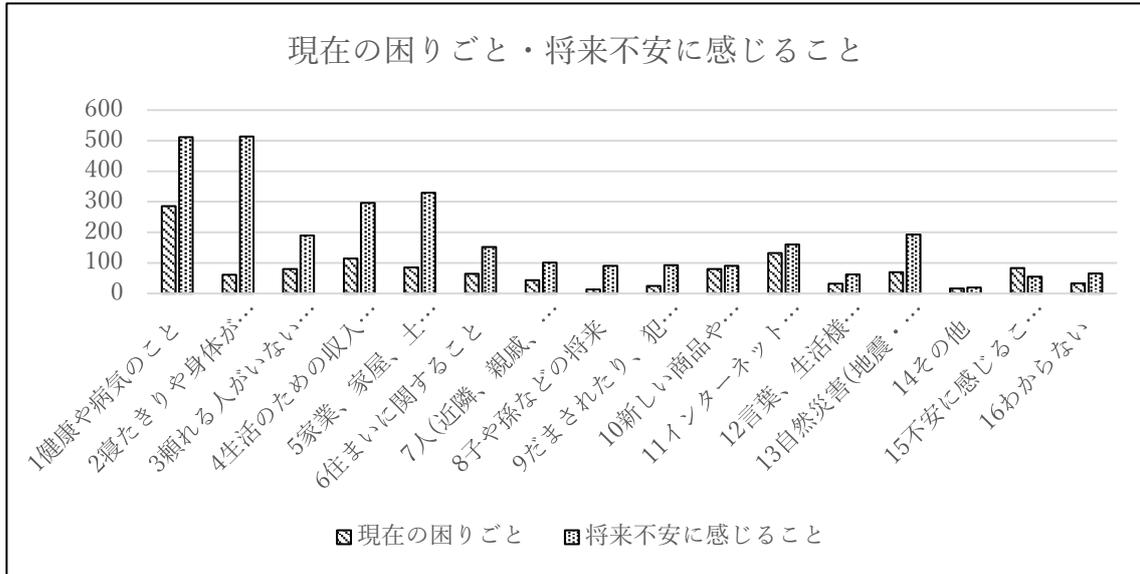


オ 現在の困りごと・将来不安に感じること

「特に孤立するリスクが高い世帯」では、「独居世帯」と比較して「現在の困りごと」において、「1 健康や病気のこと」が最も多い傾向に変わらないが、「3 頼れる人がいないこと」「4 生活のための収入がないこと」の割合が多い傾向がみられた。「将来不安に感じること」では、「1 健康や病気のこと」「2 寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること」が多い傾向に変わらないが、ここでも「3 頼れる人がいないこと」の割合が多い傾向がみられた。

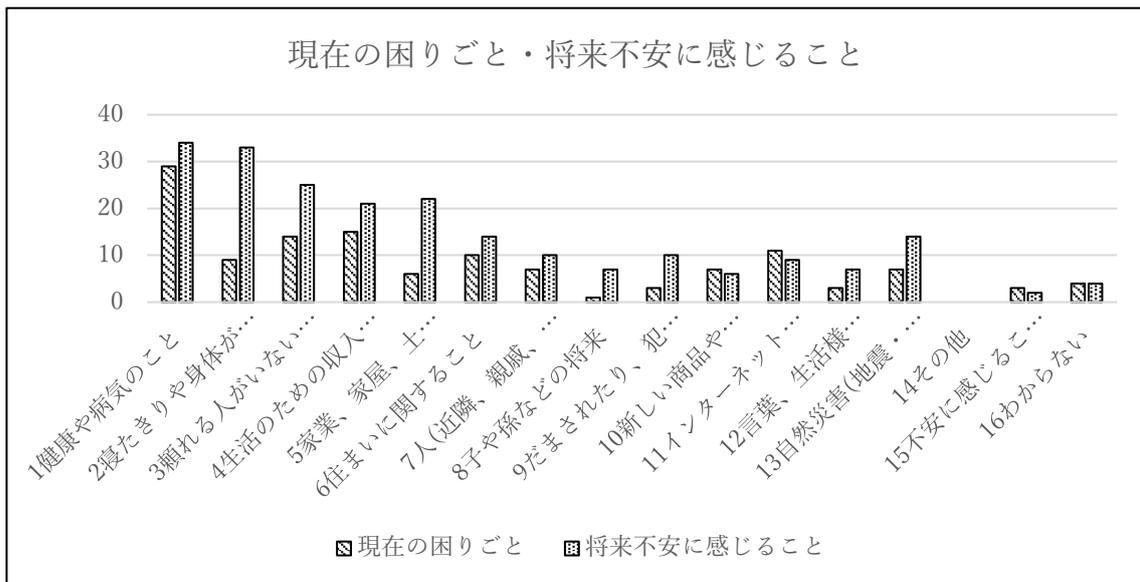
【独居世帯】

(※複数回答)



【孤立するリスクが高い世帯】

(※複数回答)



<選択肢>

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 健康や病気のこと | 9 だまされたり、犯罪にまきこまれたりすること |
| 2 寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること | 10 新しい商品やサービスの活用方法がわからないこと |
| 3 頼れる人がいないこと | 11 インターネット等の新しい情報入手方法が増え、情報収集が困難なこと |
| 4 生活のための収入のこと | 12 言葉、生活様式、人々の考え方などが大きく変わってしまうこと |
| 5 家業、家屋、土地・田畑などの財産や、先祖や自分のお墓の管理・相続のこと | 13 自然災害(地震・洪水など) |
| 6 住まいに関すること | 14 その他 |
| 7 人(近隣、親戚、友人、仲間など)のつきあいのこと | 15 不安に感じることはない |
| 8 子や孫などの将来 | 16 わからない |

カ 不安や悩みを相談することについて

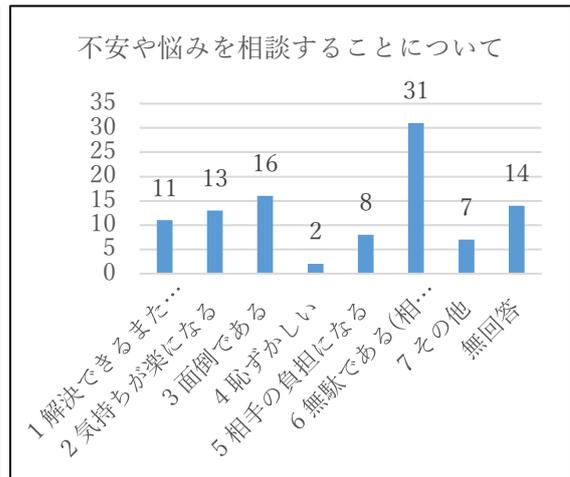
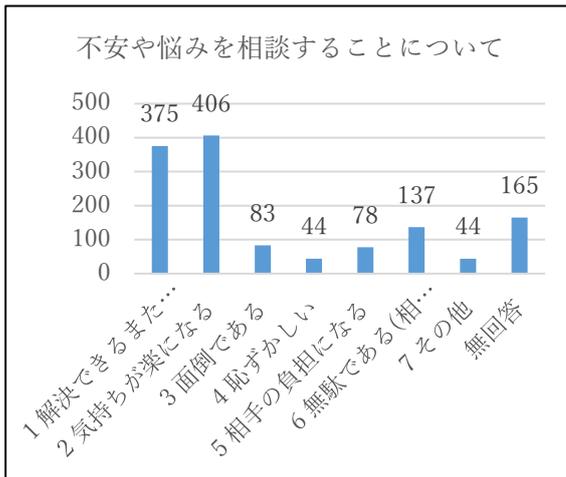
「特に孤立するリスクが高い世帯」では、「独居世帯」と比較して「1相談することで解決できるまたは解決の手掛かりが得られる」「2相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる」の回答割合が低く、「3相手に連絡を取ることや、不安や悩みを説明するのが面倒である」「6相談しても無駄である（相談しても解決しない）」の回答割合が高かった。

【独居世帯】

【孤立するリスクが高い世帯】

(※複数回答)

(※複数回答)



<選択肢>

- 1 相談することで解決できるまたは解決の手掛かりが得られる
- 2 相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる
- 3 相手に連絡を取ることや、不安や悩みを説明するのが面倒である
- 4 相談することが恥ずかしい
- 5 相談すると相手の負担になる
- 6 相談しても無駄である（相談しても解決しない）
- 7 その他
- 無回答

キ 地域包括支援センターの電話・訪問を希望するか

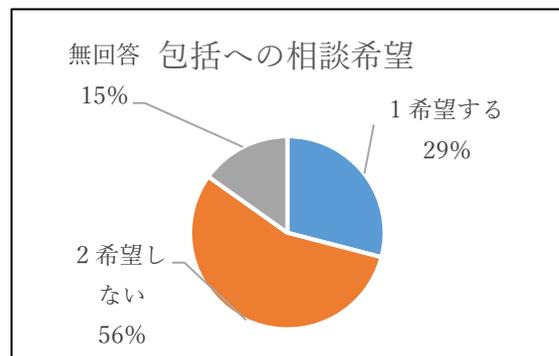
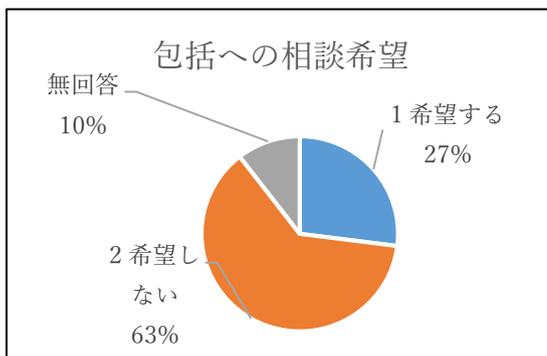
「特に孤立するリスクが高い世帯」では、「独居世帯」と比較して「希望する」割合に大きな差異はなかった。

【独居世帯】

【孤立するリスクが高い世帯】

(n=937)

(n=71)



(2) 二世帯

「特に孤立するリスクが高い世帯」の抽出条件に当てはめると、二世帯は15世帯と該当世帯が少ないため、二世帯全体との比較は行わないが、調査結果から、同居の子等とはコミュニケーションをとっており、生活費も自身の年金等で賄っているが、同居の子等以外との人付き合いや活動参加がなく、将来的に頼れる人や生活のための収入に不安を感じているといった傾向が見られた。自由記述より、障がいの子の将来を案じている方もいた。

また、「特に孤立するリスクが高い世帯」の抽出条件に「困りごとの相談先・相談相手」で「いる」と回答した方も含めると、60世帯が当てはまった。うち、29世帯は相談先・相談相手が「家族・親族」のみの回答であった。この設問の選択肢からは「家族・親族」の同居・別居の別は不明だが、頼れる相手が同居の子等のみであった場合には、同居の子等に頼ることが困難になった場合には、孤立するリスクが高い世帯となり得ることが考えられる。

上記を踏まえ、二世帯についても、個別の状況や心配ごとを確認しながら丁寧に関わっていく必要がある。

9 まとめ

本調査結果から、孤立するリスクが高い世帯は、心身の健康状態があまりよくなく、困りごとや将来不安なことがあるものの、不安や悩みを相談することについては面倒に感じる、相談しても無駄であるといったあきらめの感情を抱いている傾向がみられた。

また、他人との関わり方の満足度では、関わりに不満を抱いている方が多い傾向がみられ、人と関わるきっかけが持てずにいるのではないかと推測される。

困りごとの相談相手・相談先では、「家族・親族」、「友人・知人」が多くを占めており、公的な相談機関よりも、身近な人に相談しやすいことがうかがえる。

以上の状況から、孤立するリスクが高い方が人との関わりを持つきっかけを作れる身近な場所で気軽に参加できる居場所づくりが必要であり、その中で、身近な人に気軽に困りごとを相談できたり、気にかけてもらえる関係性ができていくことで、孤立の防止に繋がっていくのではないかと考える。

10 個別対応

調査票にて、地域包括支援センターへの相談を希望すると回答した方に対し、令和5年9月から令和6年3月までの期間に、担当の地域包括支援センターから電話又は訪問にて面談を実施する。

【相談希望者数】

	水沢	江刺	前沢	胆沢	衣川	合計
独居世帯	118	74	35	23	3	253
二世帯	73	34	21	23	2	153
合計	191	108	56	46	5	406

上記のほか、明確に相談を希望しない方（無回答だが連絡先の記載がある等）や、実際の居住実態が調査対象者と異なるため無効としたが相談を希望する方についても、担当の地域包括支援センターから連絡をとり、意向の確認を行う。（該当者：142名）

11 支援体制の構築

今回の調査では、地域包括支援センターを困りごとの相談先としてあげられた方は少なく、委託型地域包括支援センターと連携しながら、高齢者の身近な総合相談窓口であることをより効果的に周知する方法を検討していく必要がある。

「地域包括支援センターの電話・訪問を希望された方」へは、委託型地域包括支援センターが、現在の困りごとや生活状況等を確認しながら、個別に相談対応を行う。今すぐの支援が必要ではない方もいると思われるが、早めに地域包括支援センターとの接点を持つことで今後支援が必要になった時に速やかに対応できることも期待される。

今回の調査結果で把握した内容を委託型地域包括支援センターや、庁内外の関係部署・機関と連携し、事業や支援体制の構築に反映させ取り組んでいく。